

2023年2月10日

## **SAAJ** NEWS RELEASE

### 「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項 (KAM) の好事例集 2022」を公表

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：小池 広靖 野村アセットマネジメント CEO 兼代表取締役社長）は、日本公認会計士協会の協力を得て、2023年2月10日に「証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集 2022」（以下、「KAM の好事例集 2022」）を公表しました。好事例集の公表は、昨年に続き2回目です。

KAM (Key Audit Matters) は、監査人が財務諸表の監査において特に重要であると判断した事項です。我が国では、2021年3月期決算より KAM の記載が全上場会社等に強制適用されています。

#### 【「KAM の好事例集 2022」のポイント】

- KAM の好事例は、以下のプロセスを経て選定した。
  - ① 日本公認会計士協会（JICPA）による機械的な一次選定
  - ② 企業会計研究会 KAM ワーキンググループによる二次選定<優良 KAM>【27社】
  - ③ ディスクロージャー研究会の現役アナリストによるコメント
  - ④ <特別枠>（※）の選定【1社】
    - ※ 全般的な評価は高くなくても、ある点については証券アナリストに役立つ、または監査人・被監査会社へのメッセージになる KAM の記載のある会社
- 証券アナリストは、会社をより良く知るための個別取材において内部情報の取得や取扱いには慎重にならざるを得ない。一方、監査人は、監査の過程で経営者等とディスカッションを行い、被監査会社の事業内容等に関する詳細な情報や、リスク評価に必要な内部情報を得ている。良い KAM には、そうした情報を踏まえ監査人が被監査会社の財務諸表を監査する上で特に重要と判断した留意点が分かりやすく反映されており、証券アナリストがその会社を理解する際に重要な手掛かりとなるはずである。
- KAM の導入により、財務報告・監査報告書の利用者である証券アナリストと監査人のコミュニケーションが可能となった。「KAM の好事例集 2022」が、証券市場で多様な業務に携わる証券アナリストのみならず、監査人にとっても、有益なものになれば幸いである。

[【添付資料】 証券アナリストに役立つ監査上の主要な検討事項（KAM）の好事例集2022](#)

本件に関するお問い合わせは下記まで

**SAAJ** 公益社団法人  
日本証券アナリスト協会  
電話：03-3666-1200  
担当：企業会計第2部長 土谷 敬